

# 緑の風 FAX版



NO. 119 2019年4月16日 JR東労組

JR 東労組ホームページ

# 安全を守るために労働組合は重要だ！

27 特報 11版 2019年(平成31年)4月16日(火曜日)

「メイド・イン・ジャパン」。ドイツ製と並ぶほどに安定的な品質を誇ってきた、日本ブランドもついに斜陽なのか。三菱自動車、日産自動車、スバルなどの燃費や検査の不正の発覚につづいて、スキの二百万台もリコールと決まった。

ブレーキやハンドル検査は、安全性つまりは人命に関わるもっとも重要な工程だが、ここが人員削減、手抜きされているのは儲けファースト、事故が発生しても構わない思想のあらわれだ。

人間の命を守る住宅でも、レオパレス21に続いて、最大手の大和ハウスが販売した、賃貸アパート、一戸建て二千棟で建

## 本音のコラム



鎌田 慧

**偽装の官民一体**

築基違法違反の恐れが発覚。これも人命尊重より儲け主義のあらわれである。企業内に人間尊重の思想と教養、そしてそれを守るチェック機能、たとえば労働組合がない。国際競争に勝ち抜くための社内の非民主主義的風潮が社員を萎縮させ、国際競争から脱落させる。「日の丸液晶」と言われた、官民挙げてのジャパンディスプレイ(JDI)の経営が悪化、中国と台湾資本の傘下入り、日本製斜陽の象徴か。

庶民感覚とほど遠い「アベノミクス成功」とは、統計の不正、改ざんによって、検査工程で書き換えられたもので、リコールに相応する。官民一体となった偽装主義は「森羅万象すべてを担当する」と豪語する総理大臣にも責任があると思う。(ルポライター)

2019.4.16

東京新聞(朝刊)

JR東労組は、「新たなジョブローテーションの実施」提案に対して、4月12日「解明申し入れ(その1)」を提出しました。

利用者に対する安全・サービス品質の向上をめざすことはもとより、現場で働く組合員にとって、これまで培ってきた「チームで守る鉄道の安全」を基礎に、サービスレベル、働きがいを向上させる施策にするために、職場からの意見集約を行い、解明申し入れを行っています。

労働組合の存在意義を職場から深め、新聞記事にあるように、人命尊重のためにも企業のチェック機能を果たす労働組合となることが求められています。

**職場からの挑戦で**  
**「安全・健康・ゆとり・働きがい！」**  
**ある職場を全組合員でつくり出そう！**